

修士レベル化に伴う教職大学院への学生・教育委員会のニーズの例

○学生のニーズ

		根拠となるデータ		
		東京都の教員に係る研修成果報告テーマ(現職教員)	兵庫教育大学大学院の全修了生(6,517名)へのアンケート調査	
主に 現職 教員	教科の指導法・知識についてのカリキュラムを充実してほしい。	教職大学院に派遣された東京都教員の多くは教科、特別支援に関するテーマを選択している。 【熊木委員提出資料】	学習指導(39%)、特別支援教育(36%)について、大学院時代の授業が、悩み・困難を克服するために役立つと学生が評価。 【別添】	「授業構成・学習指導法」(44%)、「教科内容に関する知識」(36%)、を大学院でのカリキュラムで特に充実すべき内容と回答。【別添】
	特別支援教育など学校現場で必要とされる新たな分野を学びたい			

○教育委員会のニーズ

		根拠となるデータ	
		東京都教育委員会	岐阜県教育委員会
現職 教員	管理職養成の一環として、教職大学院に派遣し、学校経営を学ばせたい。	管理職候補者が、指導主事としての資質・能力を身に付けることができる場として教職大学院を位置づけ。 なお、教科等の指導的役割を果たすため派遣される教員も多い。	おおよそ30代半ばから40歳前後に、各教員の得意分野が明らかになり、同時に将来の見極めがなされるという考えのもとに、30代半ばからの研修として、教職大学院に派遣している。
新人 教員	大量採用期の新人教員の質を確保したい。	提携を結ぶ都内5大学の教職大学院を修了した者に対して、推薦枠を設け、一般選考とは別に選考を実施。	教職大学院等を修了した者に対して採用選考試験における一部試験免除を実施。

兵庫教育大学教員としての資質能力等に関する大学院修了生アンケート結果報告 (抜粋)

◎ 実施時期

2012年1月25日配布開始 2－3週間で回収

◎ 調査方法

紙面による配布と回収

◎ 調査対象

兵庫教育大学大学院の全修了生（6517名）

アンケート回収数：1422名（回収率：21.8%）

アンケート回答者属性

大学院入学時の職歴

	度数	パーセント
学部卒業後すぐ	165	11.6
学部卒業後に教職を経験した後	1152	81.0
学部卒業後に教職以外の職を経験した後	70	4.9
その他	32	2.3
無回答	3	.2
合計	1422	100.0

現在までの教職経験年数

	度数	パーセント
教職経験なし	66	4.6
5年未満	73	5.1
5～9年	51	3.6
10～14年	59	4.1
15～19年	117	8.2
20～24年	195	13.7
25～29年	273	19.2
30～34年	284	20.0
35～39年	243	17.1
40年以上	43	3.0
無回答	18	1.3
合計	1422	100.0

現在の職名（退職時の職名）

	度数	パーセント
教職経験なし	66	4.6
教諭	632	44.4
主観・指導教諭	73	5.1
教頭・副校長	107	7.5
校長	291	20.5
指導主事	76	5.3
その他	175	12.3
無回答	2	.1
合計	1422	100.0

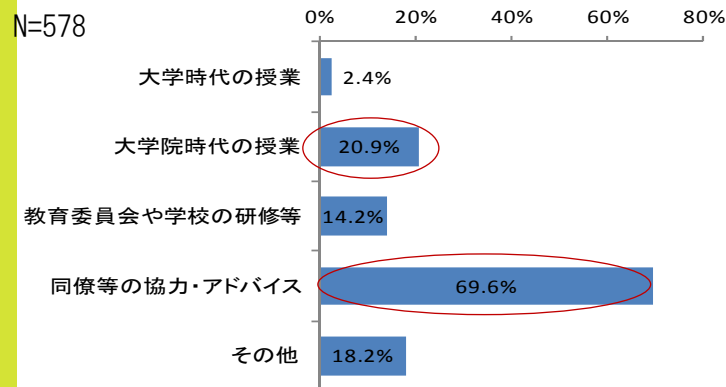
現在までで最も長い勤務先

	度数	パーセント
教職経験なし	66	4.6
幼稚園	20	1.4
小学校	507	35.7
中学校	403	28.3
高等学校	292	20.5
特別支援学校	93	6.5
その他	41	2.9
合計	1422	100.0

悩み・困難を克服するために役立ったこと

①生徒指導

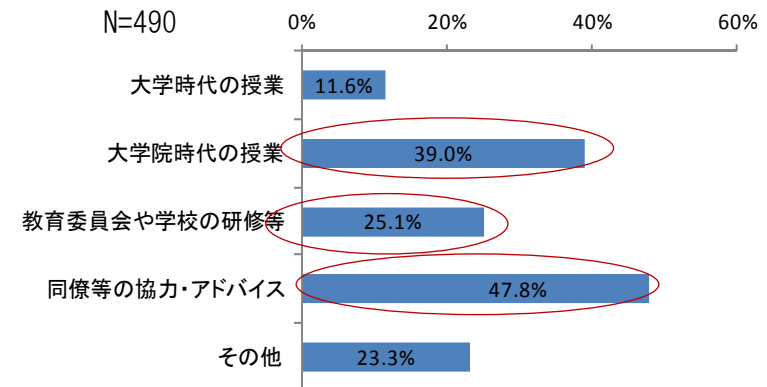
克服するために役立ったこと



- 【大学院時代の授業】
- ・集団を分析的に理解する方法、教育コミュニケーション、学んだ教育理念、生徒指導、ゼミ
- 【同僚等の協力・アドバイス】
- ・他教師のやり方から学んだ
 - ・学年会での話し合い、同じ学校の担任団で話しあった
- 【その他】
- ・自分自身の意識の持ち方、自ら学習し児童理解に努めた など

②学習指導

克服するために役立ったこと

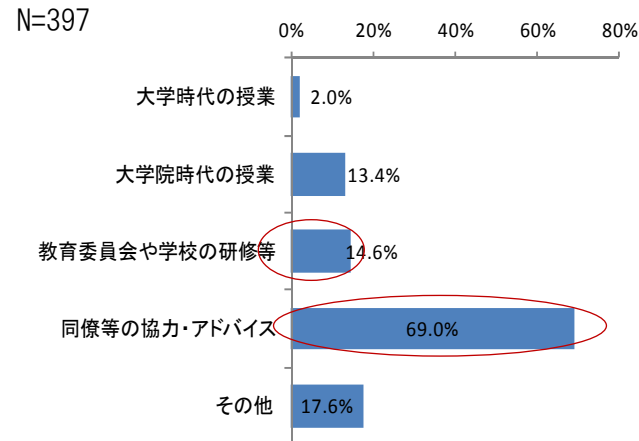


- 【大学院時代の授業】
- ・実地教育、学習指導法、修論作成
 - ・多面的授業
- 【同僚等の協力・アドバイス】
- ・授業研究によるアドバイス、職場での授業研修
- 【その他】
- ・自主的に参加した研究会、大学教授の助言
 - ・自主研修・研究会、自分で研究・工夫 など

悩み・困難を克服するために役立ったこと

◎ ③保護者対応

克服するために役立ったこと



【大学院時代の授業】

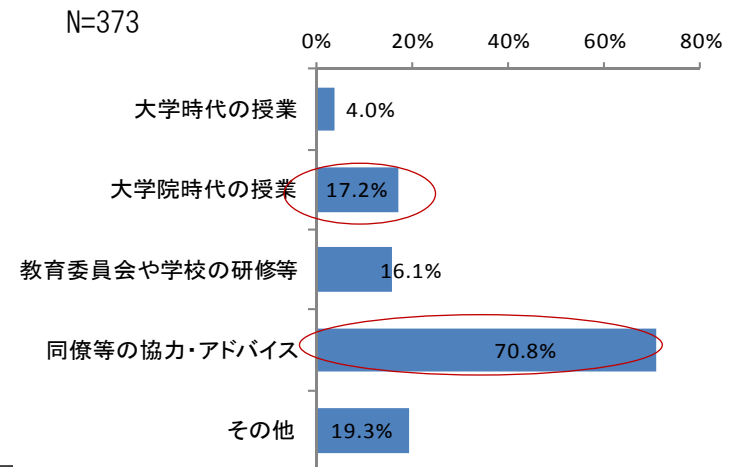
- ・教育心理学、相談・助言の方法
- ・児童青年精神医学
- ・教育経営・人間関係論、学校管理・運営

【その他】

- ・カウンセリング研修、専門家による保護者への対応
- ・自己の誠意ある対応、自己研修
- ・地域住民対象の心のケア研修会
- ・学校臨床心理士からのアドバイス など

◎ ④学級経営

克服するために役立ったこと



【大学院時代の授業】

- ・生徒指導・教育相談、発達障害に対する理解
- ・カウンセリング、生徒理解、教育心理
- ・発達心理学・行動療法

【同僚等の協力・アドバイス】

- ・先輩教諭のアドバイス、放課後の話し合い
- ・学校全体のバックアップ

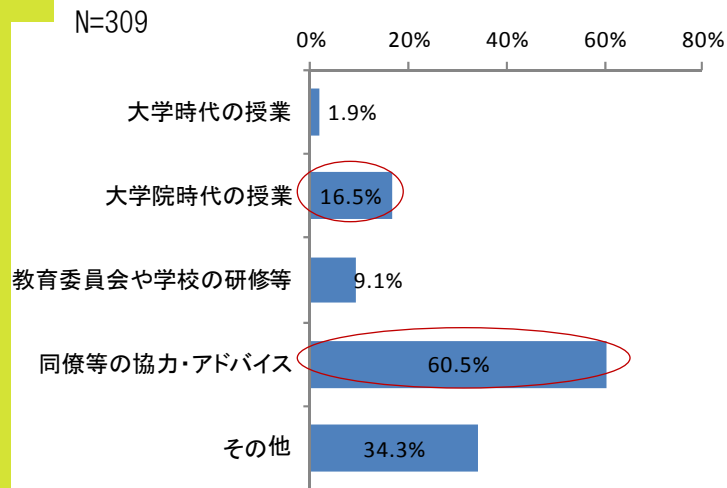
【その他】

- ・自己の経験、院生同士の意見交換 など

悩み・困難を克服するために 役立ったこと

⑤ 職場の人間関係

克服するために役立ったこと



【大学院時代の授業】

- ・ 学校経営及び教育法規、グループエンカウンター
- ・ 先輩とのケースカンファレンス、臨床心理学
- ・ ストレスの授業（バーンアウト）、ストレスマネジメント

【同僚等の協力・アドバイス】

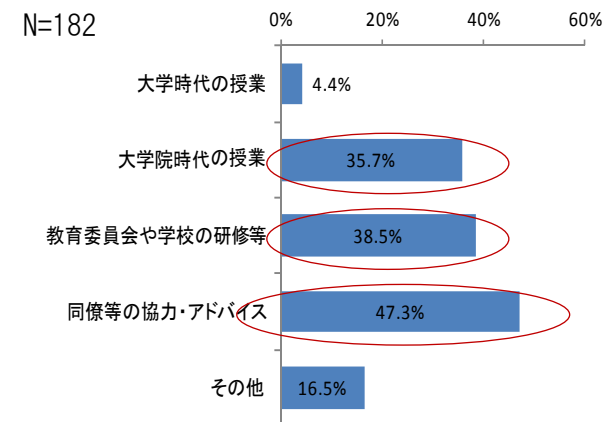
- ・ 先輩のアドバイス、校長の理解理念

【その他】

- ・ 自分で克服するしかなかった、家族のアドバイス
- ・ 管理職研修会、大学院の仲間 など

⑥ 特別支援教育

克服するために役立ったこと



【大学院時代の授業】

- ・ 臨床心理関連の授業、教育相談、生徒指導
- ・ 通常学級における特別支援、障害児教育

【教育委員会や学校の研修等】

- ・ 経験者からの指導、教諭の助言

【その他】

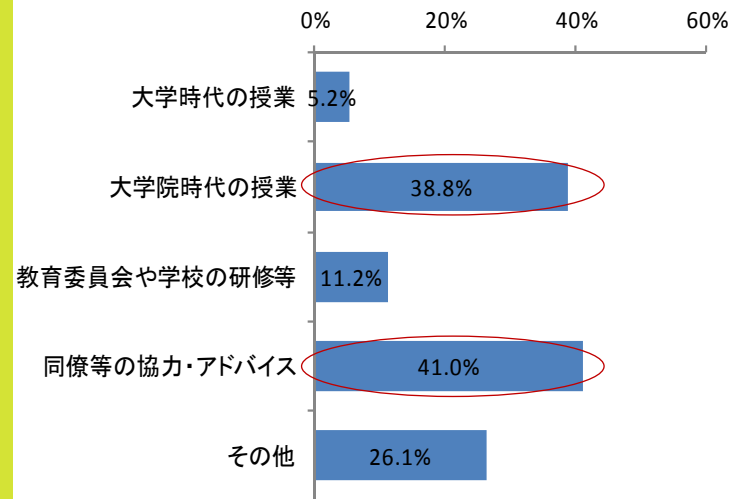
- ・ 実習・ボランティア活動、スクールカウンセラーによるカウンセリング
- ・ 大阪医科大LD研修センターLD学会 など

悩み・困難を克服するために役立ったこと

◎ ⑦教職への意欲

克服するために役立ったこと

N=134



【大学院時代の授業】

- ・ 教科内容の深まり
- ・ 院生どうしの交流、教授との出会い
- ・ 臨床心理学・カウンセリング、子どもによりそう関係

【同僚等の協力・アドバイス】

- ・ 何気ない励ましや向上しようとする姿勢、手本となる教師の存在

【その他】

- ・ 大学院での他県院生との教育交流、友人の励まし
- ・ 自己研修、カウンセリング研修 など

大学院時代のカリキュラムで 特に充実すべき内容

	度数	パーセント
教育の理念と歴史・思想	318	22.4
子ども理解	531	37.3
教科内容に関する知識	513	36.1
授業構成・学習指導法	625	44.0
特別支援教育	264	18.6
生徒指導	342	24.1
保護者・地域への対応	303	21.3
学級経営	256	18.0
学校経営	237	16.7
その他	91	6.4

